

生徒のなかにピップを真似る者は誰ひとりとしていません。彼らは、私がどのようにして基礎を確立してきたかを知っています。そしてそこから、マイム役者とは軽業師であり、詩人であり、魂のなかでリズムをとる音楽家であることを学び、沈黙とは死の世界ではないことを学ぶのです。沈黙は思考を呼吸しています。呼吸しているのです。思考を呼吸するとはどういうことかおわかりですか？思考を外部へと押し出し、心の目に見えるようにすることです。しかもこれはなかなか容易にできるものではありません。技術が未成熟な学生は、頭のなかに映画を思い浮かべます。こうすると、彼らにはすべてが見えるのですが、ほかの人には何も見えません。マイムの芸術とは、もともと目に見えないものを見るようにすること、そこに具体性を与えることです。ちょうど、誰にでも自分以外の人が見えるように、あるいは、私がマントルピースにもたれかかっている姿も、風のなかを歩いている姿も、それがみなさんに見えるようにです。言い換えれば、人間的な悲喜劇のエッセンスをさらけだしてしまうのがマイムの芸術だということでしょう。

P.83_2 短期集中連載 特別インタビュー

